



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2024年10月1日

10月 272号

奈良・人と自然の会



<暑い中、じゃがいも畑の跡地の整備をしています>



Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	海外ボランティア (パラグアイ) 11	8
Monthly Repo ならやま	2	やさしい病害虫講座 (みかんの病害虫-3)	9
里山の今 (里山、果樹)	3	ギャラリー	10
佐保台小学校放課後教室 (ならやま)・レポ	4	行事案内-1	11
いってみーひん・レポ	5	行事案内-2、お知らせ	12
恥ずかしながら 10年選手	6	幹事会報告、こもれび	13
回想の山旅-3	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

いつまでも暑い！ 彼岸の入り(9月19日)だというのに暑さ指数は「危険」レベルに。それでも季節は進み、陽が落ちると虫の声がかまびすしい。田んぼの「さよむらさき」も穂を垂れて、子どもたちに刈られるのを待っている。小さな田んぼだけれど、30人の小学生に植えられた苗は大きく育ち、50人を超える子どもたちが稲刈りを楽しみにしている。



豊かに実った穂を垂れるさよむらさき

9月後半から10月にかけてイベントが目白押しだ。稲刈り、野菜の収穫、竹や小木の伐採、薪割り、芋ほり、里山散策・里山遊びと豊富なメニューに子どもたちのはじける笑顔が目に見えかぶ。

もうすぐ気持ちのいい季節、ならやまも実りの秋を迎える。。

10月の活動特記事項 活動日：3(木), 10(木), 17(木), 26(土), 31(木)

10月2日(木)：<協働活動> アダプトプログラム

10月10日(木)：佐保台小学校稲刈り 雨天順延 10月17日(木)

10月13日(日)：朝日親と子の自然環境教室 雨天順延 10月20日(日)

10月19日(土)：芋ほりイベント 雨天順延 10月26日(土)

10月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、下草刈り、薪割り イベント準備とその片付け
エコファーム	稲刈り(イベント対応)、脱穀、芋ほりイベント対応 ナス・ピーマン跡整備、冬・葉物野菜の手入れ 鹿害予防ネットの整備
景観	整備：BC周辺、彩の森、佐保自然の森、トンネル周辺、梅林・杉林周辺の草刈り ビオ：池・水路の景観保全・整備 花：山野草園と道路沿い花壇草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備・笹草刈り 保護植物銘板付け
果樹	実りの森の草刈り、土壌改良、コンポスト作り 柿の収穫

活動日： 第4土曜日およびその他の週の木曜日 9:00~15:00

前日の17時発表の気象庁予報(NHKTV(奈良)19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

8月22日(木) 晴 近大生4名+1名

ビオ班1名と近大生4名でペタキンの定期調査とザリガニ駆除行う。田貝の状態は良好。

8月24日(土) 晴 35℃ 44名

熱中症対策として十分な水分補給と休憩を取るように注意喚起

里山Gは伐採したコナラの枝葉の処理、玉切り、No.18区画の植樹場所の下草刈り、「里山の土壌を知るプロジェクト」の土壌調査の場所の確認。エコGは玉葱畑の除草、試験農地は手つかず、カボチャなどの収穫。景観Gは緑陰広場、BC回り、トンネル付近の草刈り、蜜蜂の管理。花班は花壇などの草引きなど。ビオ班はビオエリアの草刈り。パトロールGは観察路の草刈り、佐保台小学校放課後教室の打合せ、25日



の「いってみーひん」向け工作準備。果樹Gは新田講師を招き、柿の日焼けや、実の落下などの現地講習を行う。

8月30日(金) 曇り 29名

台風の影響に加えて29日(木)の振替日でもあり参加者は少なかった。

里山Gは伐採したコナラの玉切り、薪割りなど。エコGは刈草の処理、鶏糞とチップ入れ、ネギなどの収穫、さつま芋畑などの除草。景観Gは第1、2駐車場の草刈り、蜜蜂の管理など。花班は山野草の草引き。パトロールGは観察路の草刈り。果樹Gは実りの森の除草、栗の収穫。

9月5日(木) 晴 69名

9月に入り参加者が増えた。アダプトプログラムでJRトンネル付近を整備。「里山の土壌を

知るプロジェクト」の一環である土壌調査を行う。

里山Gはコナラの枝葉処理、薪割り棚の周辺の草刈りと薪割り、土壌調査。エコGはさつま芋畑の除草、ピーマンなどの収穫。景観Gは梅林、第3駐車場の草刈り、蜜蜂の管理。花班はアジサイ園の草引き。ビオ班は土壌調査、ザリガニ駆除。パトロールGはアダプトプログラム、観察路のパトロール、自然教室の下見。果樹Gは土壌調査、実りの森の除草。

9月12日(木) 晴 35℃ 65名+2名

19日の平城宮跡東南休耕田の草刈り、21日のイベントの打合せ。朝日親と子の自然環境教室の事前打ち合わせに斎藤、澤田両氏が来訪。

里山Gはイベントの準備、薪用玉切材の運搬。エコGは大根などの種播き、落花生畑の除草。景観Gは梅畑、第3駐車場の草刈り。花班はルリマツリの移植、草引き。ビオ班はザリガニ駆除。パトロールGはアダプトプログラムと観察路のパトロール、佐保台小学校放課後教室の下見。果樹Gは栗の収穫、実りの森の除草。

9月14日(土) 晴

佐保台小自然観察会、親子10名スタッフ5名+当方スタッフ5名参加

9月19日(木) 晴 35℃ 62名+3名近大生

熱中症アラートが発令された為、昼頃に活動を中止。景観G中心に16名で平城宮跡東南休耕田の草刈りを行う。



里山Gはイベント準備、薪用コナラ玉切り。エコGはじゃが芋などの植付けとナスなどの収穫。花班は花の名札作りと草取り。ビオ班は近大生がペタキンなどの定期調査。パトロールGは観察路の草刈り、イベントの準備。果樹Gは栗の収穫、新田さんを招き、現地講習を実施。

里山グループ



果樹グループ

バイクで行く北の大地

前田 隆裕

今も、バイクツーリングを友人と40年近く、日本全国各地を周り楽しんでいますが、各地の観光を中心に地域の特産、また、そこで出会った人と話をして感動したことを思い出します。

今回は北海道最北端宗谷岬を經由して小樽から海岸線沿いに留萌、稚内宗谷岬、そこから利尻、礼文島を一周して南へ屈斜路湖、紋別、サロマ湖、網走、富良野、小樽まで10日間かけてあちこち気ままに趣味旅をしました。

観光にはあまり記載されていない、戦後のニシン漁でにぎわった番屋、南極越冬隊初期の資料館、また、利尻、礼文島では映画「北のカナリアたち」のロケ地（吉永小百合さん主演）などを見学しました。食事は、いくら、うに、ホタテ、ホッケを中心に海の幸、肉類も美味しく頂きました。観光した思い出や景色はまだありますが、なんといっても広大な直線道路や海岸通りの景色は北海道ならではの快感です。何度も行きたい所です。また、バイク乗りの人が多く泊まる宿では、主人や宿泊者の皆さんと食事後にお話やエピソードを聞かせていただき、何歳か若返った気がします。

最近のリターンライダーも多く、バイクの高速道路料金も少し安くなりました。事故もよく耳にします。これからも気をつけて、もう少しツーリングを楽しみたいと思います。



気になるお話三話

増田 典男

私は大阪在住で周囲に緑はほとんどありません。そして、里山へは奈良の言葉が好きだから通わせていただいています。喜寿を迎え頭の中が涼しくなってきましたので思いつくままの題目でページを埋めます。

梅の不作

今年は梅が不作で皆さまに販売できませんでした。いろいろ原因について話し合いましたがどうも暖冬が原因だったようです。梅は花が咲くとミツバチが飛んできて受粉して梅の実が育ちます。暖冬で梅の花が早くに咲き、しかしミツバチの行動にはまだ寒くて受粉できず実が出来ませんでした。和歌山の梅産地でも大打撃で来年冬も暖冬になると梅産地は「お金を産め(ウメ)ない産地」になると大騒ぎです。

農作物の盗難

最近農産物の盗難が多発しています。農林水産省は全国的に被害状況を調査し対策に努めています。春のタケノコもそうですが果樹グループも梅・栗・柿など被害を受けています。専業ではないにしてもやはり頑張って育てたものを盗まれるのは腹が立ちます。防止策もいろいろ推奨されていますが電気のない里山ではネットを張る、「防犯カメラ作動中」とか「110番と連携しているぞ」というようなステッカーくらいしかないでしょうか。ベースキャンプの**渋柿**は鳥に食われても腹は立ちませんけどね。

糞虫の話

先日シニア自然大学校の特別講義で奈良公園の「糞虫(コガネムシ)」の話がありました。奈良公園の鹿は約1300頭、毎日約1トンの鹿の糞を「糞虫」が処理してくれているそうです。24時間作業のお陰で何もしなくても公園はまずまずの環境です。糞虫が居なければ糞清掃費年間約100億円。この話はまたの機会に！

佐保台小学校放課後子ども教室
自然教室グループ レポ

山上 伸子

9月14日(土)

佐保台小学校児童5名+幼児1名、保護者5名、子ども教室スタッフ、里山スタッフで、子ども教室を開催しました。これは自然教室グループの年間計画の一つです。



当日のスケジュール

- 9:00 集合→体操
- 9:30～自然観察学習
- 11:30～お昼ご飯
- 12:00～ミラーウォーク
- 12:30～自然工作
- 13:00 解散

残酷暑のせい参加者は少なめでしたが、それでも若い声が里山にこだまするのはうれしいものです。さあ里山に入りましょう♪

深呼吸、木漏れ日、樹木の香り・触感、小鳥の鳴き声・いろいろな匂いや空気を楽しみます。木に抱きついて木肌の違いを感じたり、匂いを嗅いだり・また小鳥の鳴き声に耳を澄ませたり・・・

皆伐地をみて「火事になったん？」→「森がいつまでも元気でいられるように計画的に切ってるんだよ～(里山の循環の仕組みを説明)みんなが大人になったころに、また森に会いに来てね～」

「蜘蛛の糸は、獲物を捕るために糸はネバネバ、家づくりの糸は太くてしっかり、ネバネバしないよ～」→「ふ～ん、ホントだ！」引っ張って遊びます。

「松はいろんな種類があるけど、(幼木の)松葉がチクチクしないのは赤松だよ・・・」→「ふ～ん、ホントだ！」

「木の下粉はなに?」「木喰い虫かな・・・コナラの木を枯らしてしまうんだよ」→「へえ」

おっちょこちよいの椎茸がないか椎茸林を見学→「おっちょこちよいは、いないね～」

大きいキノコを発見→「カエルキノコや!」「裏がふかふかのパンケーキのようなキノコもあるよ～」・・・森はキノコでいっぱい♪

真っ白いマッシュマロのようなキノコ発見!「それは毒やで～」→「げえ!」

展望広場から景色も楽しめます。「あの山は?」→「生駒山!」「あの建物は?」→「わからへん!(正解は大極殿)」



アスレチックを楽しんでお昼ご飯。それから工作タイムです。カキ、イチヨウ、クヌギなど森で拾った葉っぱで写し絵を作成、保護者も楽しそう・・・親子の会話が弾んだかな～。

おのおの芸術作品が完成、ジュズダマブレスレットはお土産です。

とっても暑い日でしたが、親子のenjoyタイムになったかしらん・・・自然大好き、森大好きの子もたちが増えるとうれしいですね～。



**いってみーひんサマーカーニバル
in 奈良ロイヤルホテル**

小島 武雄

奈良市ボランティアセンターからの出店依頼を受けて、今回初めて「いってみーひん」の雰囲気もわからず、不安ながら参加することになりました。

広いホテルの2階全部を借り切って、体験・物販エリア、飲食コーナー、遊び広場の31出店、さらにステージは19演目の大きな催しです。会場は派手な音に溢れ、通路は歩けない程の人で、まるで混沌としたアジアのマーケットに紛れ込んだ様相。ホテルの駐車場が来場者で満車になってしまう大盛況でした。



奈良・人と自然の会の幟を立て、今回の出品は、①涼しげな竹の金魚飾り、②かわいい木の輪切りヒマワリ、③少し大人向けの自然の物を貼り付けた額飾り、④いつものジュズダマ飾り、それぞれ40個を準備しました。事前準備には、加工の大変な竹材料を里山Gの皆さま、鈴木さんにご協力いただきました。当日のスタッフは8名で長机4台、椅子10脚を用意して臨みました。

10時から17時と長時間ですので、スタッフは交代して対応する予定でしたが、細かい手数のいる工作に人気が集まり、付きっきりになり休む暇なしでした。隣は紙芝居、前には子供たちに魅力たっぷりのカラフルな風船アートや、キラキラのクレーンゲームの様な体験物で、私たちの自然工作は地味に見えたのか、なかなか

手が出て来ない様でした。唯一、竹の輪切りの金魚鉢が、爽やかなブルーに赤や黒い金魚が涼しげに泳いでいるのに目が止まり、一番人気になり売り切れに。次は、やはりカラフルなジュズダマが人気に。午後からは、やっと自然の物の額や、木のヒマワリも見直されたのか、最後まで客足は落ちませんでした。



(自然の物の額)



(竹の金魚鉢)

おかげで、スタッフは前屈みの姿勢で、ずっと立ちっぱなしの疲労困憊、体力も限界に。

売上は、合計70個(これ以上は体力的に無理で…)でした。皆さん大変お疲れさまでした。

そんな中でも、出来上がった作品に、満足してか自分でパチパチ拍手して喜ぶ子がいて嬉しかったり、また自然材料を入れてある紙皿に、思いっきり絵を描いて楽しむ子もおり、そっちか!とあきれたり…。また、やりたかった作品が売り切れてしまって、泣いた子が、気を取り直して自然の物を貼り付けた額飾り作りに夢中になってくれたこと。参加して下さった皆さんの満足した得意顔が疲れを癒してくれました。また、会の皆さんも応援に来てくださり作品作りにも参加、ありがとうございました。

いつもの、ならやまの自然環境の中で行うイベントとは大違いでしたが、終わってみればまあ良かったのでは。来年も参加するかどうかはみんな微妙な感じですが、ボランティアセンターからは「また来年もぜひ参加を」とお願いされました。



(ジュズダマ、ヒマワリ)

恥ずかしながら10年選手

高城 光一

10年選手全員が手記を投稿することになっていると言われ、「俺は10年選手とは思ってないぞ」という内なる声を押し殺してやむなく筆をとりました。

まず、10年前当会に入会した時はどんな心境であったのか思い起こしてみました。私は2012年3月にシニア自然大学校星組を卒業した後、同大学校で1年間学びましたが、卒業して感じたことは自分の感受性が変化していることでした。1つは、毎朝散歩している大洲池公園の景色が去年と違って見えたことです。毎年見ているケヤキやナンキンハゼの新緑がなぜかやたら美しく見えるのです。もう1つの変化は大阪いずみホールで聴いたベートーヴェンのピアノ協奏曲3番がこの上なく美しく聞こえた経験でした。菅井啓之先生の著書に「美しい心を育む自然観察」がありますが、まさに自然を学習することによって感受性が磨かれるのですね。仏教的に言えば、^{とんじんち}貪瞋痴の3毒が薄まり心の鏡がきれいになったともいえそうです。

そうした経験から卒業後は座学とフィールドで自然と環境問題を深掘してゆこうと決めました。座学については、シニアの「自然学講座」を受講し、一方フィールド活動としては当会を選択しました。座学で学んだことはすぐに忘れるがフィールド活動から得たものは生きた知識として長く残ってゆくと思います。

さて、高い志を持って入会したものの「あいつやる気あるんか」と言われても仕方がない低出席率でした。その理由は個人事業を続けていたことと自転車通勤だったことです。携帯があるので個人事業の部分は何とかなると考えていましたが、何故かならやま出勤日に限って「本日出荷してくれ」とか「不良品が出たからすぐに見に来てくれ」といった連絡が入るのです。

気分が削がれます。それに加えて自転車通勤は大変ハードルが高いことを知らされました。雨と猛暑と冬寒はならやまへ出勤する気持を萎えさせます。更に足元をすくう勢力に遭遇することになります。「こんな寒い時に自転車で出てゆく年寄りがどこにいるの!」と噛みつきよる...

2019年から個人事業は縮小しましたが、自転車通勤のハンデはどうしようもありません。このような状態で10年経った訳ですから里山保全のための専門性は殆ど身につけていません。しかし、このレベルの専門性で役に立つ局面に出会うことになります。一昨年自治会長に当たってしまいましたが、その時地元の2つの公園の公園樹を大幅に整備することができました。

私の居住地は宅地開発から50年経過しているため公園樹は大木化し台風時隣家を直撃する危険性がありました。また初冬になると大量の落ち葉に近隣住民は悩まされる状態になっていました。市は住民(自治会長)の要望がなければ公園樹を伐採しない。一方、自治会長はどの木を切ってどの木を残すかという整備の方法がわからないため長い間手つかずで放置されてきたようです。当会の山グループで先輩諸氏の樹木伐採の有様を見ていた私は、門前の小僧よろしく伐採する木と残す木の選別くらいは出来るようになっていました。早速市の担当を現場に招き、近隣住民も交えどの木を伐採するか、どの木を強剪定にするか等意見交換しました。住民の意見が分かれることもありましたが、最終的には会長である私が調整し、まとめて市に要請しました。大きい方の公園ではナンキンハゼを中心に22本の木に印を付け、市の業者に伐採してもらいました。市としてはかなりの出費になったと思われませんが、予算は大丈夫だったようです。かくして長年樹木が放置され荒れ果てた公園がきれいになったのですが、地元の住民からはウンともスンとも言っていないのです。私の一人よがりだったのでしょう。

回想の山旅③

台湾の奇峰「大霸尖山」(3505m)

と先住民族について

中華民國台湾省

中井 弘

頂上に高さ152m(槍ヶ岳は100m)の特異な岩峰が聳え立つ大霸尖山の登頂紀行と、いつもガイドや歩荷(ぼっか)、料理などでお世話になった先住民族についてご紹介します。

・大霸尖山登頂の記録(1986年旧正月)

一日目。バスで台北を出発。登山口から宿泊予定の山荘まで樹林帯を登ること3時間、「九九山荘」に着いた。夜空を見上げると星座の見分けがつかぬほど満天の星。明日が楽しみだ。

二日目。昨日と打って変わった雨の中、台湾冷杉の樹林帯を登る。大霸尖山の前衛峰で展望が素晴らしいとされる中霸尖山(3400m)に登るも、残念ながら霧で何も見えない。急斜面の尾根を登りきると大霸尖山の三角錐で鋭い岩峰の基部に着く。強い風が吹き抜けるので「風口」と名付けられた峠である。岩峰基部から大岩壁を見上げると、連打されたハーケンが残置されている。こんなオーバーハングの壁を登攀したクライマーは完登できたであろうか。

霧が纏わり、濡れた岩壁に取り付けられたアルミの梯子を登る。さらに鉄鎖のついた最後の岩壁を登りきり雪の残る大霸尖山(3505m)の頂上に達した。湧き上がる霧のお陰で、さほどの高度感を感じることなく頂上に登頂できた。



この山は地元の原住民タイヤル族・サイシャット族にとっては聖なる山とされ、一時期登頂が禁止されていた。(写真：大霸尖山と小霸尖山)

・台湾の先住民族について

「先住民族」の遠い祖先は、フィリピンや

インドネシア、南太平洋島嶼国から台湾島にやって来たとされる。17世紀の明・清時代には、オランダが植民地支配していた台湾島に、台湾海峡対岸の中国大陸の福建省や広東省から漢族(「内省人」)を入植させるが、それよりずっと以前から台湾島に居住していた先住民である。

台湾の近代史は、1624年オランダ人による台湾占拠に始まる。明朝(鄭成功)、清朝、日本、中国国民党など各時代の外来政権との関係で歴史が形作られてきた。

日本が日清戦争で勝利し、台湾を植民地としたのは、1895年から50年間である。その時代には、先住民族は「高砂族」と呼ばれ、共通言語は日本語、名前も日本名を名乗っていた。

1945年に敗戦日本は台湾から撤収する。中国大陸から来た国民党政府による台湾は、中華民國の行政区の一つ、「台湾省」となった。人々は当初「祖国」への復帰を喜び、国民党軍を歓迎した。しかし政府関係者は台湾省以外の出身者である「外省人」によって占められた。当時人口が約600万人だった台湾島に、およそ200万人が流入したとされる。その結果、インフレ、治安の悪化、本省人と外省人の対立が激化し、外省人に対する憎悪と敵愾心が生まれた。1947年には民衆への弾圧で2・28事件が勃発し、外省人が多く占める警察や憲兵、国民政府軍によって2万8千人が殺害されたとされる。戒嚴令は'47年から40年間に及び、筆者も戒嚴令下の台湾に4年間駐在していた。現在の台湾総人口約2342万人の内、2.4%の58万人が「先住民族」である。80%は「本省人」と呼ばれる漢民族(閩南人・客家^{みんなんじん}人)後にやって来た10数%が「外省人」である。台湾政府先住民族調査では、アミ族20



万人、パイワン族9万人、タイヤル族8万人、ブヌン族5万人、タロコ族など16民族が認定されている。(写真：人口最大のアミ族の豊年祭)

海外ボランティア活動体験記-11

パラグアイ (1997-2002)

木村 裕

農家風景

仕事で農家をよく訪問しましたが、その風景は時計を半世紀ほど逆戻しした日本の農村風景にそっくりでした。

農家は離れ離れに散らばっていて、敷地の周りには有刺鉄線で囲まれ、犬が放し飼いにされています。それゆえ、訪問者は敷地の入口で手を叩くか、大声をだして住人を呼び出します。家は方形でいたってシンプルなつくりで部屋数は1~2室、風通しは満点です。屋根が四方に広く張り出しているため、屋根付き廊下で囲まれたような感じがあります。そのひさしの下が炊事、洗濯、団らん、食事の場として活用されています。もちろん簡単な農作業も行われますが、どちらかと言えば近くにあるマンゴーなど大木の下がメインです。葉がよく茂っているため涼しい日陰が得られ、気持ちのよい風が吹き抜けています。いろいろな農具や荷車(牛が引く)、農業資材がおかれ、団らん用の椅子もちゃんとあります。



敷地内の原っぱには、ブタ、アヒル、ニワトリ、アイガモ、七面鳥などが放し飼いにされており、ニワトリやアヒルは有刺鉄線をくぐって外に遊びに出て行くが、なんとなく危険を感じるとさっと中に逃げ込みます。自分の家は忘れないようです。偉い！雨が降ると低い所が水

路や水たまりになるので、アヒルやアイガモは大喜びではしゃぎまわっています。ある農家の庭先でふ化したばかりのヒヨコ20羽ほどが雌鶏の周りでピョピョと言いながら餌をついばんでおり、雌鶏は他所へ移動しないよう紐で足がマンゴーの根っこがつながれていました。農家のおばさんが砕いたとうもろこしの餌をばらまくと、真っ先に雄鶏が駆け寄って来ました。それをみたおばさんは、アンタにはあげないよ、シッ！シッ！と追い払っていました。敷地内ではどこでも裸足で走り回る幼児たちも見られ、懐かしい昔の原風景でした。



郊外の荒地や牧場の中ではところどころシロアリの塔(直径1~2m、高さ1m前後)がよきよきと立っている異様な風景が見られます。見渡す限りこの塔で埋まったシロアリ産地もありました。この塔は頑丈で足で蹴飛ばしてもびくともしません。

あるとき、EXPO(博覧会)を見に行きました。国の各機関の宣伝展示、手工芸品の展示販売、自動車、携帯電話、ビール会社などのパビリオンでは自社製品の展示がありました。目を引いたのは牛の品評会です。非常に力を入れているようで、大きな牛舎には数十頭の毛並みの良い見事な牛がいました。普段身近な牧場で見ているような痩せこけ、歯の折れそうな硬い肉を供給するような牛はいません。何処で肥育されているの？家畜のセリ会場では、子ヤギが紐で引かれて舞台の上を競馬のパドックのようにぐるぐる歩いていました。

やさしい病害虫講座

ミカン類の病害虫—3

木村 裕

ミカン類を占拠するカイガラムシ軍団です。

【ヤノネカイガラムシ】

スーパーや道の駅で購入したミカンにこの虫の代金が含まれていることがあります。

果実の表面に暗紫色で先の尖った細長い平たい口ウの塊が付着していて、爪でこすると簡単に剥がれ落ちます。市販品ではまれに見つかる程度ですが、放任栽培のミカンでは一つの果実に数十個も付着していることがあります。



これはヤノネカイガラムシのシェルターでその下に本体の虫(メス成虫)が潜んでいます。メスはその安全な隠れ家の中で数百個の卵を産みます。卵からふ化した幼虫はしばらく葉の上をうろつき、お気に入りの場所を見つけると腰をどっしりと落ち着けて汁を吸い始め、メスは二度と引っ越しはしません。しかしオスは成長すると小さなハエのような虫に変化し、メスを求めて飛び出します。

本来のすみかは葉の裏ですが、栄養豊かな果実を見つけた虫はそこをすみかとし、最終的には人さまの手に渡り、あえない最後を遂げます。

【サンホーゼカイガラムシ】

黒褐色の円盤状の小さな虫で、葉や果実の表

面に付着しています。あまりにも小さく単なる汚れとして見逃されているきらいがあります。



【コナカイガラムシ類】

葉が重なり合った箇所、葉と果実が接触している箇所などに白い綿状の塊(メス成虫と卵)やワラジムシのような虫(幼虫)が集団で寄生して汁を吸います。



【ルビーロウムシ】

宝石のルビーのような形と色をした口ウに包まれた虫です。ルビーのような価値はまったくありませんが・・・

主として枝上に住んでおり、足は退化していて移動することはありません。たくさんの虫が集団生活をおくっているため、すす病の発生の大きい原因ともなっています。





Gallery ならやま



水彩画 興福寺・五重塔 高間 祥子



陶芸 穴窯で生まれた猫たち
5月生まれ(その2) 小島 武雄



水彩画 アカショウビン 戸田 博子



陶芸 カップ 桜木 晴代

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内 Part1



芋掘りイベントのご案内

秋の実りだ！お芋を掘ろう

有元 康人

「朝日親と子の自然環境教室」のご案内

小島 武雄

秋の恒例の稲刈り等農事体験と里山体験。
シニア自然大学校主催、朝日新聞社・朝日小学生新聞後援の、「朝日親と子の自然環境教室」を、秋のならやまで開催します。

自然に親しみ自然の不思議さ大切さを学び、合わせて親子のふれあいに役だてることをテーマに、秋の一日を元気に楽しく過ごしていただくイベントです。

今年も午前中は、稲刈りを中心とした農事と、午後からは里山での小木伐採、薪割り、アスレチックなど親子での体験を通じて里山について学習していただきます。

実施要領

1. 日時：10月13日(日) 10:00~15:30
前日17時の気象庁発表で、奈良県北部の降水確率が50%以上の時は10月20日(日)に順延。
2. 主な内容
午 前：稲刈りを中心とした農事体験
午 後：里山体験と里山遊び
3. 参加者
朝日新聞社・朝日小学生新聞を通じて事前に募集された近畿一円よりの子ども、保護者
シニア自然大学校よりのスタッフ

(昨年度計98名)

当会のイベントスタッフ30名を募集。



稲刈り体験

残暑とはいええない猛暑が続いていますが、時は過ぎていきます。芋掘りイベントの10月はきっと気持ちの良い秋晴れになるでしょう。

奈良・人と自然の会のエコグループが丹精込めて育てたサツマイモが育っています。芋を親子で協力して掘り、収穫する楽しさを体験してください。

収穫芋の形や大きさのコンテストも行います。



記

1. 日時 10月19日(土) 10時~11時半
* 雨天(前日午後7時前の天気予報で奈良県北部地方の降水確率50%以上)の場合は翌週10月26日(土)に順延
2. 場所 ならやまベースキャンプ
3. 参加者 佐保台小学校の子どもたちとその保護者
会員の家族
4. 内容 サツマイモの話、芋掘り、里山の話
5. 持ってくる物 飲み物、軍手、スコップ
6. 服装 長袖シャツ、長ズボン、帽子、運動靴
担当幹事：青木芳、福田、有元



行事案内Part2

10月自然教室のご案内



「野崎城址」自然観察会

自然教室担当 小島 武雄

皆さまお馴染みの田代貢先生と一緒に歩く自然観察会のご案内です。

JR「野崎駅」から野崎参りで有名な野崎観音から飯盛山山麓を歩き、堂山古墳史跡を巡り自然観察をしましょう。皆さまごぞってご参加ください、お友達も歓迎です。

実施要領

- 1.日 時：10月14日(月)10時～15時頃
- 2.集合場所：JR 学研都市線「野崎駅」改札口を出て(地上)広場10時集合
- 3.持ち物：弁当、お茶、筆記具、ルーペなど
- 4.山歩きに適した服装(歩く距離3km)
- 5.その他：申し込みは不要です。

雨天時も実施します。

担当：小島



野崎観音

新企画のお知らせ と お願い

旅の記憶

皆さんのスマートフォンの中に、旅の写真が収められていませんか。その思い出を少しだけおすそ分けしていただくとうれしいです。

9月号から「ネイチャーなら」に「旅の記憶」と題して、会員の旅の思い出のショットを掲載する企画が始まりました。長文執筆や投句、陶芸、絵画は苦手でも、写真の提供くらいなら…という方、大歓迎です。写真の枚数も、掲載の形式も自由です。最近のものでも、昔のものでも大丈夫です。コメントもメモ程度の短い言葉で結構です。お気軽に提供くださるようよろしくお願いいたします。

きょうみ森森

皆さんは、会員仲間の魅力やお人柄をどれくらいご存知でしょうか。あいさつだけの交流だともったいないかもしれません。そこで、仲間の人となりを紹介するべく、新企画として「きょうみ森森」というコーナーを設けることになりました。

あらかじめ質問表の中から、答えられる項目をご本人が10項目余りを選んで、インタビューに応じるという形式をとります

例を挙げると、「好きな言葉」「思い出に残る映画」「再び見たい景色」「感謝していること」などです。記事にする前にご本人に確認をお取りしますので、ご安心ください。

8月の幹事会で、アイウエオ順で「ン行」から開始し、了解を得た方から記事にするとの承認を得ました。質問者と対象者の都合や調整等で若干の順不同が起きることが想定されますがご了承ください。記事を通して、共通項や意外性など今まで知らなかった仲間の魅力を発見し、新たな親しみが湧くことでしょう。

2024年8月度幹事会報告

開催日：8月27日

- I.はじめに
 - 特になし
- II.会計・総務より
 - ・会員動向：会員数131名(家族13名)
会費未納者3名は9月末日で退会とする。
 - ・会計：収支報告
- III.活動・行事に関する議題・懸案・確認
 - 1.3ヶ月活動スケジュール検討・確認
 - 2.ならやまプロジェクト関係
 - ・平城宮跡草刈は9月末日までに実施予定。
 - ・イベントが多く、雨天延期の可能性もあり
スタッフ募集と役割分担の早期確認要
 - ・草刈機の台数確認と点検修理を行う。
 - ・夏時間を終了、9月19日から通常活動
 - 3. イベント関係
 - ・8/25 いってみーひんサマーカーニバル
(奈良ロイヤルホテル) 報告
 - ・9/14(土) 佐保台小放課後自然教室
 - ・9/21(土) こどもゆめくらぶ里山体験
 - ・10/13(日) 朝日親と子の自然環境教室
 - ・10/19(土) 芋掘りイベント
- IV.助成金関係
 - ・9月末を迎えて中間報告予定
 - ・来年度助成について申請書起草中
- V.広報関係
 - ・10月号の編成確認
 - ・新企画(旅の記憶、きょうみ森森)承認
- VI.報告・連絡事項、その他
 - 1. 月例研修会
 - ・10/7-8 岩村城跡、赤沢自然休養林
 - 2, 自然教室
 - ・9/14 佐保台小学校放課後自然教室
 - ・10/14 田代先生 野崎城跡自然観察会
 - ・佐保川小学校秋の自然観察会・日程確認



夏の午後、ならやまの西池の辺のベンチで一息入れるのが習慣になった。大きなエノキのお陰で強烈な日の光が遮られ、木の間から光が差し込んでくる。同じ太陽の光なのに柔らかい。ここに逃げ込む前のジリジリする日差しとは比べものにならない。これがこもれびか。

木陰の外は風も無いのに、ここは涼しい風？空気の流を感じる。ホットする一瞬である。

辞書を調べてみたら「木立から太陽の日差しが漏れる光景のこと」とある。味も素っ気もない。でも面白いことが書いてあった。「地面に投影される木漏れ日は、総て太陽と同じ丸い形をしていて、日差しが入り込む木の葉の隙間の形には一切影響されない」とのこと。

今年は異常気象で暑い暑いと騒いでいるが、「それがどうしたの。私はずっと遠くから何も変わらず、光を注いでいるよ。一息ついたら頑張らなさい。」という声が聞こえそう。でも、暑いのは暑い。あっちこっちに木漏れ日が欲しい。気の持ちようで見つけられたらいいのに。

11月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 11/7 協働活動日
- *自然観察会 11/14(木) 活動の午後

会員動向(敬称略)
 <退会者> 9/30 岡崎節子・奥谷佳由里
 奥谷久邦子・森秀雄

発行：奈良・人と自然の会
 URL : <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木(幸)・尾崎・清原(加)
 柴田・千載・田中・戸田

次回幹事会は9/24(火) 中部公民館 14:00~

表紙写真：じゃがいもを収穫した跡地に肥料を入れて、次の作物のための準備をしています